

自然界における Vibrio Parahaemolyticus の調査

金 鉄三郎*

I はじめに

腸炎ビブリオの分布調査についてはこれまで海水、海泥、魚介類等について継続調査を進めて来たが、自然界から分離される「神奈川現象」陽性の溶血株について、前年の実績（金、1971）¹⁾を基にして更に調査を進めることにした。

II 調査対象

検査地域は由利海岸の金浦漁港および象潟漁港で、検

表1 検体採取表

採取月日	地 域	天候	気温	水温	検体	検体数
6. 7	金 浦	晴	22°C	17	海水	40
〃	〃	〃	〃		海泥	40
〃	象 潟	〃	〃	19	海水	40
〃	〃	〃	〃		海泥	40
9. 8	金 浦	〃	28	22	海水	40
〃	〃	〃	〃		海泥	40
〃	象 潟	〃	30	24	海水	40
〃	〃	〃	〃		海泥	40
合 計				320		

表(2) 腸炎ビブリオ分離表

採取月別	地 域	検体	検数	分離数	陽性 %	血清型別数	型別 %	K 抗原型						神奈川現象	
								18	22	28	32	34	38	U	
6	金 浦	海水	40	0											
		海泥	40	5	12.5	2	40				2			3	(一)
	象 潟	海水	40	0											
		海泥	40	2	5	1	50					1		1	(一)
9	金 浦	海水	40	10	25	5	50	1		3	1			5	(一)
		海泥	40	7	17.5	5	71		1	3			1	2	(一)
	象 潟	海水	40	3	7.5	1	33				1			2	(一)
		海泥	40	6	15	1	16.6					1		5	(一)
合 計			320	33	10.3	15	45.4	1	1	6	4	2	1	18	

*秋田県衛生科学研究所 細菌病理科

体は海水および海泥について行なった。採取日時および検体数は表(1)のとおり合計320件について行なった。

III 検査方法

A 検体採取

1. 海水

海水は海岸堤防の波打際の予め定めた地点から長柄ひしゃくで水面より1m以下のものを汲みあげ滅菌容器に採取した。

2. 海泥

海泥は鉄製筒状の特殊な採取器を用意して波打際から3m以上投げた地点から引きあげ、ポリ袋に採取した。

B 培養法

培養法および生化学的同程検査法はこれまで定められたものに従った。

IV 成績ならびに考察

検査成績は表(2)のとおりで腸炎ビブリオの検出は10.3%の33株で、K抗原型別出来たものは15株(45.4%)であった。

この成績は前回の調査と相違し低率であり金浦港では特に著しかったが、その原因は5月下旬に同港内を浚渫したことがあげられる。更に神奈川現象陽性株は今回の調査で検出することが出来なかったことは、漁港内が浚渫船で清掃された結果によるものと判じられ、6月と9月の比較によてもこのことが明らかである。従って腸炎ビブリオの汚染防止は海泥浚渫等による港内清掃よっ

てその目的が達しられることが示唆されるものがあつた。

文 献

- 1) 金 鉄三郎: *Vibrio Parahaemolyticus* の越冬性について。秋田衛研所報。15, 45~49. (1971)